

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市660-10		
自己評価作成日	平成22年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区中町24-2若杉ビル2階		
訪問調査日	平成23年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『富南の郷里』は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。北に世界遺産の富士山、東は箱根の山は天下に剣と歌われた箱根連山、一級河川の大場川のはとりに、三島市と函南町が共同で企画整理をした閑静な住宅地の中、豆州志稿の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てております。敷地の中で、樹齢およそ300年の安久源入と言われる柿の木を初め、栗の木、林檎の木、梅の木、銀杏のたくさんなるイチョウの木、ビワの木、金柑の木、柚子の木などなど、四季を感じさせる花々、うぐいすやふくろうなどの鳥たちと、そして、三島市安久と函南町間宮の心温かい人たちに支えられ、共にいっしょに第三の人生を楽しんでおります。入居者のご家族を初め、地域の方、ボランティアの方、さまざまな方々に応援していただき「あ〜これでよかったなあ。」と言えるよう、言われるように『富南の郷里』の介護職員は一生懸命に職務に励んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を近くに臨む豊かな自然に恵まれた環境の中で、利用者は季節の移ろいを楽しみ、趣味の絵画等にいそむ様子が見られました。職員は、“ゆったりとした時間や場所の提供を途切れないようにしたい”“利用者に寄り添って、共に過ごす時間を少しでも長くしたい”と願い、試行錯誤を繰り返し前向きに支援に取り組んでいる様子が見られます。理想を実現しようとするホームの視点の高さが汲み取れます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と共にゆったりゆっくりと第三の人生を共に歩む。理念に向けて、ゆったりとした空間、ゆっくりとした時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	理念は玄関ホールに掲示し、勤務表にも記載し職員に配布している。さらに会議でも共有化を図っている。申し送り時、ミーティングではゆったりとした時間、ゆったりとした場を提供する事を必ず確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属。獅子舞、子供シャガリの来所。祭り行事の参加。会社祭り時における敬老会による協力。町内清掃への参加。	町内会に加入し、祭りなど行事に参加している。子供駆け込み110番の指定を受け、地域に協力している。施設の行事には地域の方がボランティアとして参加して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営会議の中で地域包括と、共に認知症ケアの勉強会と地域が高齢化を支える為の勉強会を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動の報告をし、参加者より意見をいただき、取り組めることを実行している。	2ヶ月に1回程度、活動報告と共に熱中症対策、看取りに置ける問題点、認知症サポーター養成などをテーマとして開催している。メンバーからの意見や提言は少なく、法人からの報告が多い。参加する家族などは固定化が見られる。	直面する課題には、「相談」という形で働きかけて、意見などをもらうのも良いでしょう。メンバーが固定化しないような工夫などを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退去の情報、苦情になる前の相談等を行っている。	地域包括支援センターや介護相談員は運営推進委員会に参加しているが、市役所の担当者の訪問までには至っていない。	市開催のグループホーム連絡会に参加したり、運営推進会議に市担当者を招いたりし、顔の見える関係を築き、相談できる関係を継続されると良いでしょう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間帯のみ以外は施錠していない。拘束については真剣に検討し、身体拘束を必要としない状態をつくる方向を追求しているが、どうしても必要な場合にはご家族に必要性の説明と理解、承認を得ている。	運営規定等に身体拘束を掲げ、日中は玄関施錠せず自由に移動できる環境を整えている。居室は内側からの施錠で、外からはかけられない構造になっている。屋外散策など積極的な支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開所より、高齢者虐待はあってはならないことは当然として利用者様にたいして拘束をしないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者様あり、必要性に応じ関係者と報告、連絡、相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時の利用者家族に対して再度の説明。ターミナルケアに向かったの説明を行なう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1、2回のケア会議に参加していただけるように前月に家族宛の手紙にて発信している。	家族に請求書や手紙を送付する際、写真を添えて、近況報告をしている。利用アンケートはとっていないが、家族の来所時に意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	稟議書等を設け職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	稟議書提出を通し、職員の思いや意見を管理者は常に把握し、検討している。随時オーナーに相談をして解決している。	提出された職員の意見を集積して、更なる検討などを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇、希望公休日に対する支援。残業ゼロ目標、年末年始に対するお年玉手当ての支給、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人の申し出等により、シフト上可能な限り研修機会を確保し、資格の習得、研修に参加出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度の三島市グループホーム部会に参加し意見交換、勉強会等の活動を通じて、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人とコミュニケーションをとりながら傾聴し話しやすい雰囲気をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭等での介護の様子を聞きながら家族介護をねぎらい、安心して入居していただける様、訪問、電話等で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭訪問等により、必要と予測されるサービスを考え話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとり、一人一人の生活や今出来ることを把握し、出来ることはしていただいたり、職員と共に作業を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の状況を伝えたり、御本人の意向をふまえ今後の支援についての話を面会時等に話し合い、出来る限りの家族のかかわりをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から利用されていた床屋、美容院、馴染みの店等職員同行にて対応している。外からの来客者には又気軽にお越しいただけるように言葉掛けをさせていただいている。年に2回馴染みの人にはがきを出し関係維持の支援に努めている。	年賀状、書中見舞いを馴染みの人に書き、喜ばれている。面会時間は、9:00から19:00ころまでで、夜間は家族が多く、友人は日中の訪問が多い。理美容院の帰路を楽しみにしている利用者には、職員が同行して、生活習慣や人の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の関係づくりの為に、体操、ゲーム、歌、等入居者さんが皆で楽しめる時間を持てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて御家族等と連携をとり相談に応じたり今後の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉の一つ一つをのがさない様にして行動などから考える事を職員と共に検討している。	本人や家族の日々の話の中から情報を得て、思いや意向を把握している。表情観察などから思い・意向を汲み取り、記録する事で職員全員での情報共有に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅のケアマネージャー等により情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居される以前の過ごし方は家族等から情報を得て、入居後は個別の介護記録等より、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは記録し、本人の言葉等からケアカンファレンスにて話し合いをしている。家族にも日程をお知らせし参加をお願いしている。	職員は利用者の発語や表情を捉え細かく記録し、業務日誌にも提案事項を記載している。これらの情報や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアと記録をしている。(一覧表でプランの把握)実践してみても見直しはカンファレンス会議等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者専用住宅、デイサービス、ホームヘルパー居宅支援センター、グループホームの事業展開により捉われない支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の馴染みの店、理容店などを定期的に利用し、ケアプランに載せ活用している。また来客者等がタクシー		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族の希望を優先し適切な医療を受け入れるよう助言支援している。	以前からのかかりつけ医を希望する利用者には家族が同行して受診し、グループホームの介助用車両を無料で貸し出す支援をしている。結果は家族から報告してもらっている。連携している住診可能な医師がいるので家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースとの情報の共有、異変時の24時間連絡体制を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に病院を訪問し御家族と連携をとり、医師・看護師等と情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、悔いのない最期を迎えていただけるように支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化及び終末期のことについて口頭で説明し、状況が変化したときには再度検討することになっている。常時、医療が必要になった時の対応や指針については文章化されていない。	かかりつけ医と相談しながら、口からたべられなくなった時点で検討するなど、具体的な時期や対応方針について書面に示す等の整備が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、初期対応の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練を定期的に行なっている。職員全員の緊急連絡網の作成をし、職員全員に配布している。	事業所内では実施しているが、地域の協力体制をとるまでには至っていない。再三消防署に依頼しているが、日程が折り合わず協力を得られない。	地域との協力体制の構築などを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の返答能力に応じた質問方法、御本人が思っている現実をなるべく否定しないように対応している。個人情報の取り扱いについては、職員の契約時厳しく指導している。	本人の気持ちを大切に考え、さり気ない言葉かけや対応をしている。情報収集や守秘義務について、常に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく御本人の希望に応えられるように心がけている。希望に応えられない場合には分かりやすく説明をして、出来る限りの自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人の意向によってしえんしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族の要望、本人の訴えが困難、身体的に困難な場合には定期的な訪問理美容師を利用。訴え等のある方は家族に報告、相談し行って頂いたり、職員が同行している。その他衣類等に付いても同様の支援をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の相性、コミュニケーションの困難、ADLの低下等にて困難な面もあるが、出来る方にはその人の力、要望を聞きながら、利用者様と共に食事の準備や片付けをしている。	利用者同士の席の配置への工夫や好みの食べ物などは希望に添えるように努めている。利用者の意欲やADLにより、できるところを共に行っている。下膳や片づけ、献立の紹介等を日課にしている人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理表にて個々の一日の水分量、食事の摂取量を把握。一日の摂取カロリー、栄養バランスについては業者により食材配送をお願いしている一人一人の状態や力に合わせ、刻み、ペースト食等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に対応。状況を見て棒付きスポンジ等を使用。就寝前には入れ歯洗浄剤等を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて一人一人の排泄パターンを把握し時間的な言葉掛け、誘導をするなど自立に向けた支援を行っている。	排泄介助はその人に合わせた個別支援ができています。自立に向けた排泄の習慣や不安への配慮として、さりげなく「向うに行ってみませんか」「どうですか」などと声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握、調理の工夫、水分補給(お茶ゼリー)等に配慮し、必要あれば主治医と相談し排泄のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の訴えが困難な方や状況もあり、全員が入浴出来るように話し合い、入浴拒否の場合を含め日を入れ替えるなど、対応をしている。	風呂は炭酸泉浴の設備がある。利用者の習慣や好みに合わせて個別対応している。入浴を拒否しそうな人には、ローテーションの工夫を行い気持ちよく過ごせるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の日々の体調に応じて、居室等に誘導し休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬管理表を作成し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに合わせて一人一人の出来ることへの再確認をしながらその方に何をしてほしいのではなくその方が何をしたいのか発見に注いでいる。敷地を利用した野菜作り、桜の花見、外食、ドライブ等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調に配慮しながら天気の良い日には散歩に出掛けるようにしている。利用者様のADL低下、相性等を考慮し少人数の(1対1)対応での支援もおこなっている。	敷地内にある果樹園、堤防沿いの遊歩道や公園等への散歩は日常的に行っている。また、趣味の合う人同士季節毎の野菜作りをする等、屋外に出かける機会としている。墓参は家族の協力で行き、近くの神社の初詣には職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない、トラブル防止の為、基本的に金銭は持っていないようにしている。買い物へ同行した際には希望を聞き、後日請求書として購入もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や書中見舞い等をおこなっている。書けない、書きたくないと、職員が書く事も多いが出来る範囲で本人に書いて頂く支援はしている。又電話をかけたいといわれる方には掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音を愉しんでいただき、日中の光に対してはカーテン、照明等により調整している。季節により加湿器を設置し、1年を通じ空気清浄機を使用している。	掃除が行き届いた清潔な室内であり、空調もこまめに調節している。ホールは広く、ゆったりして動きやすい。廊下の隅にイスがあり、人目を気にせず静かな居場所が確保できる。居室用の名札に工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置してある。職員により誘導、言葉掛け、相性、体調を考えた席替えを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前生活していた時の家具等、御家族、本人の希望する物を置いてもらっている。	居室には馴染みの物が持ち込まれ、「家庭」の雰囲気がかもし出されている。明るい配色の飾り付けをし、目線の高さになるように掛けるなどの工夫で殺風景にならないようにしている。たんすや仏壇、身の回りの小物、写真や愛読書など落ち着いて暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の性格や対応の仕方を把握しているが対応に困る場面も多々あるが一人一人に合わせた言葉掛け、工夫、努力はかなりしている。		